

③個人追究:関係を図や絵に表して求め方を説明する。

②学習課題:図や絵，3コマまんがなどを使って，起こったことを順にもどしながら，もらったあめの数を求めよう。

②見通し:一人あめを何こもらったかわからない。

→剛さんがいくつもらったか，逆に考えていけばよい。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・四則演算ができ，加減，乗除の逆演算関係を計算に利用できる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・前時，3要素2段階「順にもどす」求め方を学習している。

≪学習問題≫

剛さんたちは，お手伝いをしたお礼にあめ

をもらいました。もらったあめを5人で同じ

数ずつ分けました。剛さんは，前から6この

あめを持っていたので，剛さんのあめの数は

15こになりました。

お礼にもらったあめは，全部で何こあったのでしょうか。

教材研究ノート№4-A-9

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・1つ1つ順にもどして考えると，はじめの数が求められる。

・もどすときには，逆の計算をする。

④共同追究後半（思考を深める）

「剛さんは15こ持っているのだから15×5－6では，いけないのか？」「分けたのだから，(15－6)÷5なのでは？」

→「6こはもらったあめ分を入れる前からあったから，先にとっておく。15×5だと，前からあるあめも5人で分けたことになってしまう。｣

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることはどんなことだろう？」

→「順にもどして逆の計算をしている。」

⑥定着･活用問題

「寛さんたちは，集めたどんぐりを7人で同じ数ずつに分けました。寛さんは，妹に8こあげたので，寛さんのもっているどんぐりの数は22こになりました。集めたどんぐりは，全部で何こあったでしょうか。」

由介さんは，22＋8＝30　30×7＝210　210個　と考えました。

由介さんの考えを，図を使って説明しましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・問題を提示しただけでは解く手がかりがつかめない子どもが多いと予想されるので，問題をイメージできるように，時間を追って整理したりつぶやきを板書したりしながら見通しをもたせたい。

・順にもどして考えると，たし算がひき算に，わり算がかけ算になることを関係図で確認し，数量関係を基にした演算決定の仕方を理解させたい。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫